

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 御厩から檀紙を歩く

講師 小比賀 信茂（小比賀家当主）  
檀紙地区地域おこし運営委員会  
史跡部会

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

平成29年3月19日（日）

## 1 御厩

御厩の由来は、承平七年（九三七）の朱雀天皇の御代に、勅使が無量寿院に下向のとき、馬を集めてその御用にそなえたことによると言われています。

江戸時代中期には御厩焼がおこり、のちに地場産業として発展しました。昭和八年頃には、約百軒弱の窯業を営む家が、津内山を中心に西と北に向かって分布していました。御厩焼の製品としては、土管、瓶、鉢、焜炉、煙突、炬燵、火鉢、植木鉢等がありました。一般必需品であることと、価格の安さから需要が多く、県内はもちろん、近畿、中国、九州にまで移出していました。

## 2 檀紙

檀紙は、沖積平野の中央を流れている古川の流域で、水田地帯としてはやく開けたところであると推定されています。東には香東川が流れ、古くから檀まゆみが繁茂はんもしていました。この檀の木の皮を原料としてつくる紙は上質で、檀紙と呼ばれ、円座とともに讃岐の貢物となっていました。その製造は天正年間（一五七七〜九二）に廃れたといわれていますが、現在も紙漉かみすきという地名や紙洗池、紙漉洗神の祠などがあり、その面影を残しています。

### 3 小比賀家住宅

小比賀家住宅は、江戸時代を通して庄屋、大庄屋を務めた家系の屋敷です。

小比賀家の先祖は、甲斐源氏武田氏から分かれたもので、天正十年（一五八二）に甲州征伐により武田氏が滅亡した後、姓を小比賀氏と変えて四国へ渡りました。戦国時代末期は、讃岐国室山城（栗山公園の裏側にあった）の城主として過ごしたことが、『全讃史』などの古記録に残っています。現在の場所へは、十七世紀初頭の慶長年間（一五九六～一六一五）に移り住みました。

小比賀家住宅の敷地は約一四〇〇坪もある広大なもので、敷地内には主屋、午門、土蔵、米蔵など、数多くの古い建物が残されています。屋敷構えが家格にふさわしく風格あるものとして、主屋、午門、土蔵、米蔵の四棟が昭和四十六年に国の重要文化財に指定されています。

さらに、主屋西側の池泉回遊式の築山庭園も、同年に県の名勝に指定されています。平成二十五年から二十七年にかけて、主屋、午門、土蔵等の保存修理工事及び耐震性を高める補強工事が行われました。



●長屋門（午門）

長屋門は、長さが三十六メートルもあり、重要文化財指定の長屋門では、日本最大のものです。主屋から見て南、つまり午の方角にあるので、午門とも呼ばれています。中央に大門があり、大門から東の部分は、三頭分の厩舎うまやと四頭分の牛舎うしやになっています。大門から西の部分は、昔は門番が住んでいたようですが、今は納屋になっています。屋根は茅葺で約三十トンの茅が使われています。午門の奥に前庭を隔てて主屋が、主屋の背後に土蔵や米蔵があります。

●主屋

屋敷の中央に建てられた、間口十三間半、奥行五間半という大きい建物です。茅屋根の寄棟造りで、四方には本瓦葺の庇がついています。棟上には、本瓦葺の煙出しがついています。

●小比賀家築山庭園

面積約二六〇坪の池泉回遊式庭園で、江戸時代初期における讃岐の庭園の代表とされています。老樹、名木は枯れて建築当時とは面影が異なりますが、その規模は雄大で、讃岐の庄屋の屋敷地割りの面影をとどめ、豪華に整備されています。庭園には、南北に「く」の字に湾曲した形に掘られた池泉があり、南部の池泉中



には鶴島、亀島の二島が配置されています。亀島の中央部には、珍しい宝篋印塔型の灯籠が置かれていきます。

★小比賀家住宅 公開日について

- ・ 公開日：毎月第三日曜日の十時～十六時
- ・ 料 金：大人 五百円、小・中学生 三百円

#### 4 御厩大塚古墳

御厩大塚古墳は、横穴式石室を主体部とする盛土古墳です。墳丘土が流出等で失われて現在の形状になっています。このように大きな横穴式石室墳が平野の真ん中に造られているのは、県内でも少ない例です。



## 5 彦四郎の墓

彦四郎は、享保三年（一七一八）に元山村（元山町）の農家に生まれました。幼い頃から大志を抱き、十七歳のころ意を決して諸国を遍歴し、尾張国（愛知県）で、陶器製造の技術を身に付け、製法が簡易で価格も安く、人々に広く使用される生活必需品の陶器づくりに成功しました。

元山村に帰った彦四郎は、陶器の製造を始めましたが、窯入れをし、焼くことごとく失敗しました。その原因が陶土にあることに気付いた彦四郎は、適土を求めて讃岐国内の各地を歩いて、ようやく御厩村の津内山の山麓で良質の陶土を発見しました。

その後、ここに住居をかまえて陶器づくりに専念し、御厩焼を完成させました。実用的で価格も安い御厩焼は、郷土の特産物と なっていきました。寛政九年（一七九七）逝去。



▼御厩焼を紹介した高松市の広報チャンネル

「高松訪ね歩記～御厩焼きを訪ねて～」

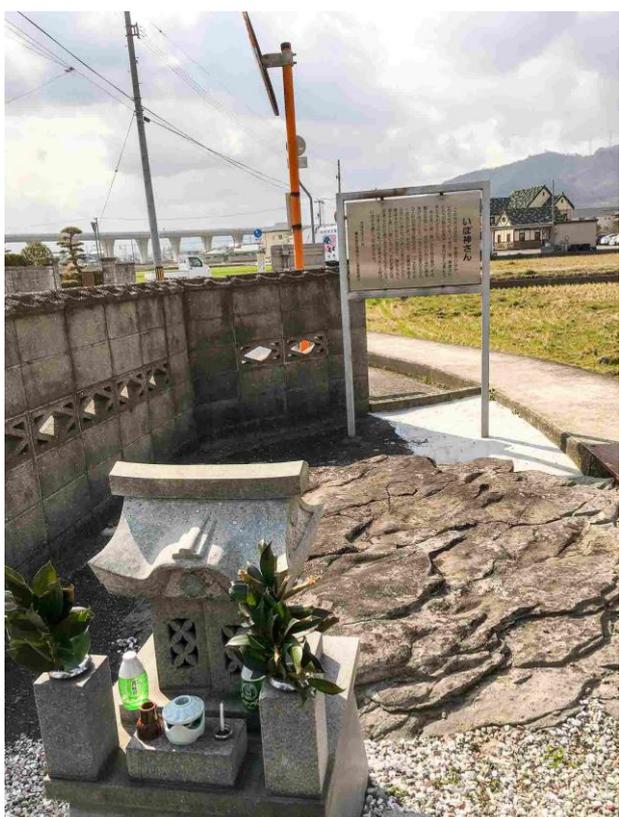
<http://takamatsu.mothertown.tv/channel/ch2/219.html>



## 6 いぼ神さん

檀紙小学校から南へ歩いて二分ほどのところに、表面がひだやしわのようになって大きな平石があります。この石はいぼ神さんと呼ばれており、昔、鎌倉さんという力持ちの男が津内山から運んできたものだと言われています（別名「鎌倉さんの袂石」）。

いぼ神さんと呼ばれるようになった由来は、顔一面いぼのある娘が、その醜さを悲しみ、古川沿いの小沼に身を投げようとしたところ、白雲の上から降り立った老僧（日蓮上人の化身といわれる）に、「この平石のくぼみにたまった水を、お題目を唱えながらいぼにつけよ」と言われ、そのとおりにしたところ、いぼが跡形もなく消えて美しい顔になったという言い伝えによるものです。現在も、いぼの治療に御利益がある石として親しまれています。



《参考文献》

高松市文化財保護協会 『わが町の文化財探訪』 平成十九年

高松市文化財保護協会 「重要文化財 小比賀家住宅（パンフレット）」

角川書店 『角川日本地名大辞典37香川県』 昭和六十年

高松市立図書館 『遺跡が語りかける―高松の古代文化』 昭和六十三年

高松市 『高松地名史話』 昭和三十六年



集合：小比賀家住宅

御厩大塚古墳

彦四郎の墓

檀紙コミュニティセンター

3月19日（日）復路

◆ことでんバス 御厩線

（御厩）

（八幡高松西インター口）

（高松）

12:03 発 → 12:05 発 → 12:45 着

次回のふるさと探訪は…



テーマ 西方寺山の桜・史跡と御殿浄水場をめぐる（予定）

とき 平成29年4月9日（日）

9:30～12:00頃

集合場所 御殿浄水場（予定）



※解散場所は西方寺配水池を予定しています。

講師 高松市上下水道局職員

参加費 無料

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」3月15日号に開催案内を掲載していますので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★

《行き》

◆ことでんバス 香西線

（高松駅）

（郷東橋）

8:30 → 8:50

《帰り》

◆ことでんバス 香西線

（西方寺下）

（高松駅）

12:14 → 12:34

# 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、  
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を  
つけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。

